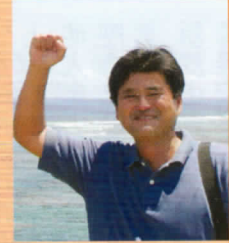


名護市
議会議員

東恩納たくま



発行：東恩納たくま
携帯：090-9786-9471

名護市字瀬高48 電話・FAX：0980-55-8587
ホームページ：www.takumahigashionna.jimdo.com

議会報告第21号

強い気持ちで臨む2022年！ 1月23日市長選

明けましておめでとうございませう。2022年が始まりました。瀬高の浜で見た大浦湾から昇る初日の出は美しく、感動しました。この海がいつまでも穏やかで、人々を癒す存在であることを願っています。

私は昨年六十歳になりました。1997年の名護市民投票から基地問題に関わり、二十四年が経ちました。いまだに基地は造られていませんが、この計画の白紙撤回も勝ち得ていません。この間、基地問題の解決のために、自然を生かし、基地に頼らない持続可能な地域経済の確立を目指してきました。多くの方が私の考えに賛同し、応援して下さいました。引き続き知恵を絞って精一杯頑張っていきたいと思っています。

今年重要な選挙が続きます。一月の名護市長選、夏の参議院選、九月の沖縄県知事選と名護市議選。コロナ禍で観光客が減り経済的打撃

を受けた沖縄に対し、国は今まで以上にアメと鞭の政策で県民・市民を分断し、民意に反する基地建設を押し付けようとしてくることでしょう。



瀬高の初日の出 #希望の海

しかし名護市民が現市長の行う、「見返りのために基地建設を黙認し、基地という負の遺産を未来に押し付ける政治」を、本当に望んで

いるとは思えません。名護市民には、今の生活も子どもたちの未来も犠牲にせず、心豊かに暮らす権利があります。そのために、人々が「あきらめ」ではなく「希望」を持って、基地受け入れ以外のベストな選択ができるように、沖縄の政治家は踏み込んだ政策を示すことが求められています。

名護市長選には、稲嶺進前市長が後援会会長として支える岸本洋平市議が立候補を表明しています。岸本氏は辺野古への基地建設を認めない立場をはっきりと述べ、かつ、基地再編交付金なしでも、保育料、給食費の無償化は、名護市独自の財源で、継続できるとしています。

若い感性で新しいアイデアを持った時代のニューリーダーになってくれると期待しています。

(岸本洋平氏の政策はp4で今度こそ、基地の見返りという

悪魔のささやきに翻弄されず、名護市民の良識によって正しい選択がされるよう、みなさん、岸本洋平への応援、よろしくお願い致します。

東恩納たくまの一般質問

東恩納たくまは去る九月、十二月議会で以下の質問を行いました。

○基地問題について

―玉城デニー県知事の埋立設計変更申請不承認について

―沖縄防衛局が軟弱地盤を隠していたという報道について

―美謝川の切り替えについて

○旧消防庁舎等跡地について

○教育行政について

―名護市立中学校の定期テストの廃止について

―休業中の小学生の居場所について

○インターネット通信環境について

○林業振興について

―名護林業生産加工販売事業協同組合について

―東海岸の赤土流出被害について

○瀬高保育所の跡地について

○名護市嘉陽の「上城」発掘調査について

以下、要約と解説を行います。

○基地問題について

①玉城デニー県知事の埋立設計変更申請不承認について (右下参照)

私は地元の市長としてこの不承認をどう受け止めるか質問しましたが、渡具知市長はまるで他人事のように「動向を注視する」「答弁は差し控えたい」と繰り返すのみでした。

市長は四年間、基地問題に関して、「国と県の訴訟の動向を見守る」と「ロボットのよう」に繰り返してききました。

辺野古基地建設の現状



埋立設計変更申請不承認とは

沖縄防衛局は大浦湾の軟弱地盤の改良工事を行うため、埋立設計変更の申請を県に行いました。それに対して11月24日に玉城デニー知事は「不承認」としました。これで大浦湾側の工事は少なくとも1・2年は進まなくなりました。(今後も別の設計変更があるだろうが、その度に知事の承認が必要。)

不承認理由のポイント

- 現在の技術では水深70m以上は地盤改良ができない。
- 軟弱地盤改良に時間がかかり、県の調査では、新基地建設の完成まで、最低でも12年以上かかる。しかも軟弱地盤の工事によっては、さらにいつ工事が終わるか分からない不確実性があり、工期はどんどん延びていく。
- 一日も早い普天間の危険性の除去にならない

デニー知事は

「無意味なものとなる可能性がある工事の継続は許されない」「現在進められる辺野古側での作業も含めて埋め立て工事の即時停止を求める」とした。

今回の不承認では、軟弱地盤改良の技術的な問題により、工事の完成が不確実であり、十二年以上かかる可能性が県から示されました。この事は名護市民の生活にとって大きな負担です。またもし欠陥滑走路が建設されれば、事故などに繋がり、市民の生命を脅かすことになりかねません。いくら「辺野古への字も言わない」選挙で当選したからと言って、基地建設は名護市で行われていることですから、地元の市長として市民を守るため、責任を持って国に物申すべきではないでしょうか。

②沖縄防衛局が軟弱地盤を隠していたという報道について

「埋立てを始める三年前の二〇一五年には防衛局は軟弱地盤の存在を把握していたが、それを隠

して埋て工事を始めた」という報道についての見解を市長に求めました。市長は「報道後防衛局に問い合わせ、『隠したという事実はない』と聞いている」と返答。問い合わせで初めて認められていることは、隠していたということになるのではないかと問い詰めたところ「防衛局が隠している隠してないかというところは防衛局において確認されたほうがいいんじゃないでしょうか。」と議員の私が防衛局に確認すればよいと、答えました。これにはさすがにあきれしてしまいました。地質調査が間違っていれば沈下する危険があります。そういう危険性を公表しない防衛局は信用できません。しかし、市長は防衛局になんの抗議もしない。無責任な雇われ市長といわれても仕方ありません。

③美謝川の切り替えについて

市は基地建設のために必要となる美謝川の切り替えに関して、法律や契約書の「解釈」を防衛局と「口頭で確認し」、「国による市所有地の購入が必要ない」と判断した」と回答しました。

本来、行政のやり取りはすべて文書で残すものです。私から改めて、防衛局、防衛省から法律や契約書の解釈を文書で確認をとるようお願いしましたが、総務部参事は「改めて文書を求める考えはない」と答えました。無責任な市長の姿勢に追隨して、市の参事も同じように怠慢な仕事を行っています。このような態度は、議会軽視であり、市民の財産を守る行政マンとして、失格と言わざるを得ません。

美謝川の切り替えに掛かる手続きは、稲嶺進前市長が、市長として工事を止めることができる重要な権限の一つとしていました。

それを現市長は国の言うままに、「洪水吐切り替えは法定外公共物に当たらない」とし国との協議は必要ない、「水路変更に関係する名護市の土地を国は買う必要もなく、議会の承認は必要ない」と解釈し、工事を自ら前進させました。中立を装って市長に当選した渡貝知氏ですが、次の市長選挙では辺野古推進の立場をはっきり市民に示すことが、民主主義のルールではないでしょうか。

○旧消防庁舎等跡地について

市東江にあった消防庁舎が移転したことに伴い、名護市は跡地利用事業を募集し、公募型プロポーザル(提案入札)で大和ハウス工業沖縄支店とアベストコーポレーションの共同企業体(JV)に跡地

を売却しました。

しかし、その後、渡貝知市長の親族が常務執行役員を務める会社「丸政工務店」の子会社の「有限会社サーバント」がこの土地が転売されたということが分かりました。市長も、事実を認めています。

また、入札の段階で、落札したダイワハウス(JV)よりも一億三千万円も高い買取価格をつけた企業がなぜか選ばれなかったことも明らかになりました。

この事業計画は市議会承認を受けていますが、その時の説明では、市長の親族と関係のある会社が、最終的に土地を購入することは伏せられ、議員への説明資料に書かれていませんでした。

市議会での説明内容と実際の事業計画が食い違っており、当然、丸政工務店の子会社「サーバント」に所有権が継承されることについて、再度、市議会にはかる必要が地方自治法上あると私は考えるのですが、市の回答は、「再度の議決は必要ない」でした。

しかし、私たち議会の多数派である野党議員は、もし最初から市長の親族会社が最終的に土地を購入するとわかっていたら、この契約を承認することはありませんでした。現在、この跡地利用計画と市有地売却について調査する百条委員会が設置されています。最終報告は三月ごろを予定(委員長談)

この問題取材したジャーナリストの横田一さんは、「この問題を「名護版モリカケ疑惑」と称し、市長が自分の親族の關係会社に安く土地を購入させるために圧力をかけた疑いがあると指摘しています。市長は、なぜ最初から議員に親族の關係会社へ

の売却を知らせなかったのかを、説明するべきです。

○教育行政について

名護市の中学校において生徒の学習評価を行う際、定期テストを廃止し、新しい試みを行っている学校があると聞き、教育委員会に質問しました。

教育委員会の回答

「今年度から市内二つの中学校が中間テストや期末テストなどの定期テストを廃止し、単元ごとのテストや授業中の見取りなどで学習状況を評価する方法に切り替えている。その主な目的としては、日常の学習評価を丁寧に行うことで子どもたちの学習への取組やつまずきを早期に把握し、迅速かつ適切な学習指導を行うことにある。実際、今年度の子どものたちの学習状況について、学習意欲の高まりや学力定着の効果があるとの報告を受けている。また、授業者である教職員による生徒へのフォローアップを短期的・継続的に行うことにより、生徒との信頼関係や学習活動の定着とともに教職員の授業力向上にも寄与することが期待されます。」

「定期テストの廃止などの決定は、学校長の裁量で行える。」

これまで行ってきた評価方法を変えることは一時的に仕事が増え、負担になり、躊躇する学校もあると思いますが、子どもたちにとっては、単元ごとに学習を振り返る方が、理解が深まるのではないかと私は、期待しています。今後も、現場の先生方、生徒や保護者の方々の声を聞きながら、教育委員会に適切な支援を求めていきたいと考えています。

1月24日名護市長選挙

岸本洋平

予定候補

現行の保育料、給食費・子ども医療費の無償化は、基地の再編交付金ではなく、名護市の独自予算で継続！。岸本洋平とともに、新しいアイデアと取り組みで、市を活気づけ、所得向上を目指しましょう。

若者がチャンスをつかむことができるまち

ともに喜び支え合うやさしいまち

力強い経済支援でまちを元気に

所得向上！地元企業の徹底活用と産業の育成

誇りあふれる小さな世界都市(父・建男構想)を前へ！

SDGsを推進し希望ある未来を創造します

(SDGs=持続可能な開発目標)

内部資料

保育料・給食費・子ども医療費はこれからも無償化！

守るかならず

市民のくらし
あなたの笑顔
子どもの未来

SNSでも発信中！



QRコードから洋平のSNS情報を見ることができます。お知り合いに洋平を宣伝して下さい！

←花園出場の経歴を持つ洋平。アスリートのフットワークで市民のために奔走します！

豊かな自然の中で暮らすことは、名護市民の財産です。洋平は名護市民が誇りに思う美しい自然を守ります。環境破壊である辺野古・大浦湾への基地建設はもちろん反対です。



岸本洋平
大浦湾(ホープスポット)を見下ろす瀬嵩の丘から

玉城デニー知事の設計変更不承認を支持し
辺野古新基地建設は認めない！